

古着・古布回収事業の実施について

平成31年度より各校区のふれあいセンターに設置してある古着・古布回収ボックスにおける回収量に応じて売り払い収入を各校区に分配することとする。

【事業目的】 ふれあいセンターに出される古着・古布の回収率アップを目指す。
地域の収入源の増加を図る。

【事業内容】 ふれあいセンターに設置してある古着・古布回収ボックスでの回収量に対し、
5円/kgを校区の実施団体に対し分配するもの

【モデル事業の紹介】

平成30年度は西岐波校区がモデル事業として先行実施した。

西岐波校区コミュニティ推進協議会が主体となって、ふれあいセンターに古着リサイクルボックスを設置し、古着と合わせて新しいものも受け取り、毎月第2土曜日に開催される「西岐波みんなのお祭ひろば」において販売することで得た売上を、地域の収入にする。



西岐波ふれあいセンター
玄関横に設置



平成30年12月8日（土）
西岐波みんなのお祭ひろば（床波漁港ひろば）

【販売実績】

販売価格は1枚100円。

新品など一部の商品は300円、500円。（最高額でも500円）

実施月	10月	11月	12月	1月	2月
売上額	2,650円	文化祭実施のため開催なし	10,200円	雨天中止	9,800円

※回収量や販売枚数の記録はしておらず、売上金額のみ把握している。

【モデル事業実施団体より意見】

今までの実施期間の中で、特に問題点は感じていない。

服以外の回収希望があれば受け入れたり（羽子板、雛飾り等）、返品希望があれば返金して対応したり、地域住民の希望に対して融通を利かせて対応している。

ごみ一つが地域の資金になるということで、住民たちへの理解も得やすく、手間に対して利益の方が多いと感じられる。

事業を始めるにあたってかかった経費はハンガーの 2,000 円のみで、特に負担もなかった。

【新たな取組】

家庭で不用になったレコードをふれあいセンターで回収し、業者に買い取ってもらい、売却金を地域の収入にしている。

買い取り業者に希望日を連絡すると、運搬業者が直接集荷に来てくれるため、配送の手間はない。また使用する段ボールが支給され送料も無料になるため、コミュニティの金銭的負担はない。さらに買取できない物も希望により処分してもらえるため、センターで廃棄処分をする手間もない。

実際にコミュニティが行っているのは回収業務と梱包作業のみだが、10 月から開始して、すでに 24,650 円もの収入を得ている。

【古着・古布回収量の推移】

西岐波ふれあいセンター

(kg)

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
29 年度	559	201	350	167	215	270	1,762
30 年度	410	272	379	371	281	497	2,210

※前年度比 25%増加